

【外国語・小5・「Lesson 5 I can run fast.」】①

育成を目指す資質・能力

単元目標：相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、聞いたり自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができる。

ICT活用のポイント

個別最適な学び（指導の個別化）の充実 / 振り返り・学習評価における効果的な活用

事例の概要

【つかむ】

指導者のできることやできないことについての紹介を聞き、本単元の学習の見通しをもつ。

単元の課題

自分のできることなどについて、自分の考えや気持ちを入れて発表しよう。

【追究する】

自分、相手、第三者のできることやできないことを言えるようにする。
できることやできないことを尋ねたり答えたりして伝え合う。

【まとめる】

自分のできることなどについて、自分の考えや気持ちを含めて発表する。

事例におけるICT活用の場面①

- 本単元で必要とされる語句や表現について、ALTが録音した音声をICT端末上のピクチャーカードに紐づけ、学習支援ソフトにより児童のICT端末に送信する。
- 児童は、できることやできないことを尋ね合う練習や言語活動の際、発音に不安のある語句や表現をタップし、ALTの発音を聞きながら個別に練習する。

事例におけるICT活用の場面②

- 児童は、本時に言えるようになった表現をICT端末に録音し、データを教師に提出する。
- 単位時間ごとの振り返りにおいて、児童は振り返りカードに記入した内容をICT端末のカメラで撮影し、データを教師に提出する。

事例におけるICT活用の場面（その他）

- 児童は、自分が話している様子をICT端末で録画し、映像を見ながら自分の課題に気付き、どのように改善したらよいかを考える。
- 単元末の発表をICT端末に録画し、データを教師に提出する。教師は、提出されたデータを確認し、学習評価に活用する。児童は、単元の振り返りにおいて、録画したデータを見ながら、単元の学習を始める前の自分と比較する。

【外国語・小5・「Lesson 5 I can run fast.」②】

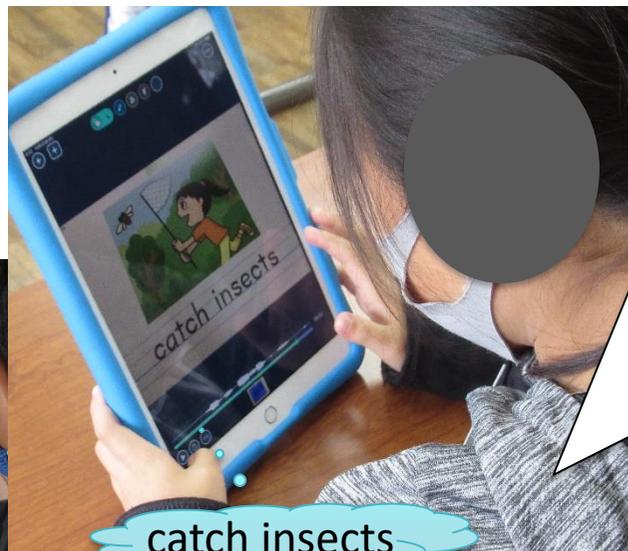
【事例におけるICT活用の場面①】



再生ボタンを押すと
音声が出る。



ペア活動の際、発
音に不安のある語
句のピクチャーカ
ードをタップする。



catch insects

音声を聞き、個別で発
音練習をする。

【事例におけるICT活用の場面②】



振り返り・学習評価における効果的な活用

- 振り返りの場面において、児童が本時に言えるようになった表現のデータを教師に提出することで、教師は、児童の学習状況を把握し、次時の指導に生かすことができる。
- 児童が振り返りのデータを教師に提出することで、教師は瞬時に全員の内容を確認することができる。そのため、必要に応じて全体で共有したり、代表児童を紹介をしたりし、次の学びに向かう意欲を高めることができる。

個別最適な学びの充実

- 自校の先生のできることをペアで伝え合う場面で、児童は、発音に不安のある語句や表現について、必要に応じて音声を確認することができる。
- 児童は、言えるようになるまで何度でも聞くことができるので、自信をもって話すことができるようになる。
- これまでは、教師とALTの2名で全員を支援していたが、ICT端末の活用により、一人一人に技能を確実に習得させ、主体的に学習に取り組むよう促すことができる。

【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト
- ・音声録音再生機能
- ・動画撮影機能